

とうかつ

第45号

普及だより

<https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-toukatsu>

令和7年12月発行

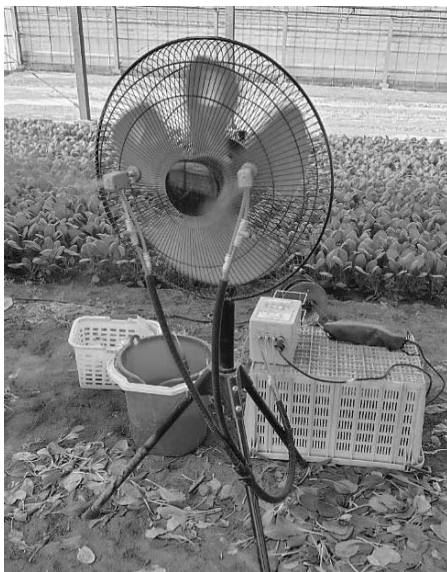
発行：千葉県東葛飾農業事務所改良普及課

：東葛飾農林業振興普及協議会

住所：〒277-0005 柏市柏255-1

電話：04-7162-6151

FAX：04-7162-6154



ミスト発生装置を取り付けた扇風機

こまつなは船橋市のブランド野菜になっており、「JAちば東葛西船橋葉物共販組合」において年間を通して生産が行われています。しかし、最近では、夏が暑く、ハウス内の温度が高いため熱中症のリスクが高まるとともに、作業できる時間が短くなるなどの要因で、夏季の出荷量が減少しています。

猛暑における農作業の負担軽減に向けて
ミストファンを活用した暑熱対策を実施しました

今回使用したミスト発生器は、既存の扇風機に簡単に取り付け可能なタイプで、専用の扇風機を購入する必要がありません。また、電源があればペットボトルやタンクに入れた水を自動で吸い上げてミストを噴霧できる手軽な装置となっています。

猛暑が続く8～9月にかけて調査を重ねたところ、ハウスの中において、ミストの当たる場所の温度は当たらない場所に比べて約1～2℃低く、さらに、生産者の体表温度は、約3℃も低くなっていました。

こまつなもミストに当たって多少濡れてしまうものの、徒長したり病気になったりなど悪い影響は見られませんでした。実際に使用した生産者からは、まずまずの評判で、「猛暑時は蒸れる感じがするが、ミストがあるのとなんでは違う」「暑さに慣れていないパートさんが喜んでくれる」と



ミストファンに当たりながら作業する様子

いった声が聞かれました。熱中症リスクの高い夏季の農作業においては、こまめな水分・塩分補給と十分な休憩などが基本的な対策となります。

暑熱対策としてのミストファン・ミスト発生器については、今回ご紹介した機種以外にも様々な製品が販売されています。

本記事の内容と合わせて、対策を検討する際の参考にしていただければ幸いです。

エコフィードを活用した 飼料コスト低減

最近の農業関連資材の価格高騰は、農業経営に大きな影響を与えています。特に厳しいのは畜産における飼料価格の高騰です。

畜産物の生産費を見ると一部を除いて飼料費が生産費の半分以上を占めています。とくに配合飼料とともに輸入乾草を多用する酪農経営に飼料価格の高騰が与えたダメージは大きく、ここ3年は廃業を加速させました。

飼料費低減の方策として、自給飼料の増産が第一にあげられますが、畑の確保、機械の整備など、解決すべき課題が多く、特に畑の確保が難しい東葛飾地域では相次に困難です。

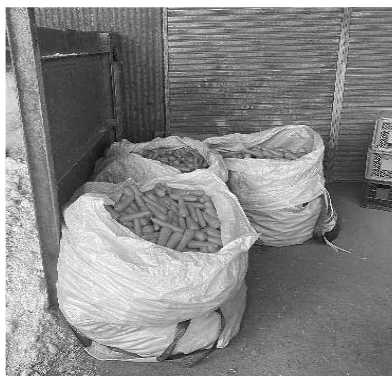
このような中で注目されているのがエコフィードの有効活用です。エコフィードとは、食品産業から排出される食品残渣を家畜の飼料として活用するものです。大量に排出・利用されているものとしては、ビール粕、醤油粕、豆腐粕（おから）などがあります。

エコフィードは、配合飼料とは異なり栄養価や運搬、保管、給餌

などの取り扱いの面で利用の難しさがあります。そのため、エコフィードを有効活用するためには一定の技術が必要ですが、管内の酪農家においては徐々に活用が進みつつあります。早期に取組を始めた事例では、乳量・乳質を確保しつつ飼料費の低減が図られるなど経営基盤の強化に成功した経営も出てきました。

さらに、新たな取組として、東葛飾地域の特産品である春夏にんじんの規格外品や、管内農家が栽培したさつまいもの加工品である干し芋の残渣など、小ロットながら地域資源の活用も始まりました。

今後、畜産経営の改善にもつながるこのような取組が、拡大、定着していくことが期待されます。



春夏にんじんの有効活用

研修会・視察を通じて

仲間との交流を深める！

「とうかつ女性農業者ネットワーク」の活動について

「とうかつ女性農業者ネットワーク」は、東葛飾地域において農業に携わる女性たちが、地域農業を盛り上げていくため、学習会や研修、会員間の交流を通じて経営・技術を学び、自身のスキルアップに取り組む団体です。

本年度は、6月の研修会で、「販売先の多角化に向けた加工の取組」をテーマとした会員の事例発表と、「気象の変化に負けない経営」についてグループディスカッションを行いました。

事例発表では、熱意をもって一歩踏み出し、苦勞しながらも加工に取り組む状況が語られました。参加者からは「自分で形にする意欲と本気度がすごいと思った」といった感想が寄せられました。グループディスカッションでは、野菜・果樹・畜産と様々な立場から活発な意見交換が行われました。

また、11月には先進事例視察研修会を開催し、農業に頼らない病害虫防除等について学ぶとともに、コーヒー農園での焙煎体験を

通じて、参加者同士の交流も活発に行われました。

今後、とうかつ女性農業者ネットワークでは、農業経営や技術を学び、地域農業を盛り上げていきます。

〇会員募集のお知らせ〇

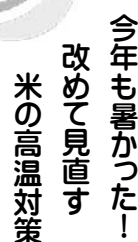
とうかつ女性農業者ネットワークでは、一緒に活動する女性農業者を募集しています。

農業のことはもちろん、家事や育児との両立等、農家同士だからこそ理解し合える話ができる場となっています。

ご興味のある方は、改良普及課までお問合せください！



研修会の様子



【白未熟粒とは】

【適期作業の実施】

※※※※※※※※※※※※※※※※

「コシヒカリ」5/1移植の生育予測
(10/16までの気象データより)

幼穂形成期 : 6/26
出穂期 : 7/21

この予測から推奨される作業時期

追肥 : 7/3～7/11
斑点米カメムシ類対策
畔草刈り : 7/7まで
防除１回目：7/24
防除２回目：8/5
収穫 : 8/28
※ 出穂期後の気温が高い場合、收穫適期は早まります

高温登熟障害危険期：7/21～8/4

※※※※※※※※※※※※※※※※

出穂期前の最低気温が高いと、
稈が伸び、倒伏しやすくなります。
倒伏しやすいほ場では、基肥や追
肥の窒素量を減らすこと、追肥の
時期を遅らせることが効果的で
す。とくに5月中旬以降にコシヒ

【出穂後の葉色を維持】

登熟期間中の葉色を維持するために、幼穂形成期に追肥し、出穂期の葉色が目標値を下回らないようにしよう。出穂期後に高温が予想される場合、出穂期7～5日前に葉色を確認し、目標値に達しないと予測されたら、10 a 当たり窒素量で1 kgを目安に追肥しよう。

品 種	葉 色	
	カラスケール	SPAD 値
ふさがね	4.5	36.5
コシヒカリ	4.2	34.4
粒すけ	4.2	34

出穂期の3週間前から2週間後までの期間は、湛水状態とします。その後は、登熟期間後半の根の活力を維持するため、間断灌漑を行います。収穫前の落水は収穫の一週間前を目途に行いましょう。

高温により分げつが増えると、茎数、穂数、籾数が過剰になりやすくなります。

その結果倒伏しやすく、外観品質も低下します。

茎数が目標値に達したから中干しを実施し分げつを抑制しましょう。

品種	移植期	目標値(壤土)
ふさがね	4月20日	20本/株
コシヒカリ	4月20日	20本/株
	5月1日	17本/株
粒すけ	4月20日	24本/株

出穂期後に高温になると、収穫適期が早まります。刈り遅れのないうち、平均的な株の一番長い穂をしっかり観察しましょう。帯緑色割合が15%の時が、収穫適期の目安です。

ねぎの夏越し対策について

令和7年を振り返って

定植前の準備編

台風、ゲリラ豪雨、高温少雨等
を乗り切り、ねぎが健全な状態で
夏を越せるよう、今一度ほ場選
び・ほ場づくりに取り組みましょ
う。

1 排水性の良いほ場づくり

- ・明渠を掘っていますか？植え
溝より明渠を低く掘りましょう。
- ・水が流れるように傾斜をつけ
る、一部分に水がたまらないよう
に均平をとる等ほ場にあつた対
策をとりましょう。

2 保水性の良いほ場づくり

- ・堆肥投入や緑肥の栽培・すき込
みなど、有機物を入れて団粒構造
を増やす取り組みをしましょう。
- ・腐植の数値を確認しましょう
(腐植3%以上が推奨されてい
ます)。

3 ほ場内外の雑草防除

- ・雑草防除を徹底し害虫の増殖
を防ぎましょう。

4 ねぎの連作回避

- ・輪作、緑肥の栽培等を実施しま
しょう。

5 定期的な土壌分析

- ・肥料過剰になっていないか定
期的に確認しましょう。

定植後の管理編

1 暑い時期はねぎの根を傷め
る作業はしない！

ねぎの生育適温は15℃20℃前
後、根の活動適温は8℃25℃で
あり、夏はねぎにとって「お休み」
の時期です。気温が高い時期は、
断根による生育停滞や病気の侵
入を防ぐため、土寄せ等の作業は
避けた方が得策です。

2 台風対策

① 事前対策

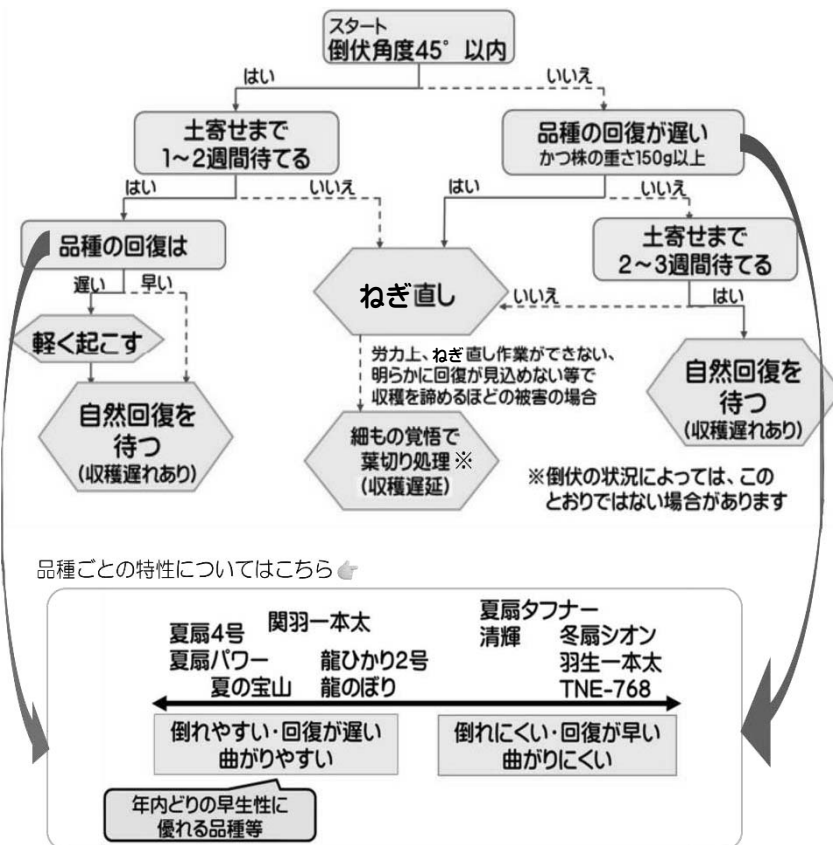
- ・土寄せ（ねぎが肩までしか倒れ
ないので、倒伏角度が小さくなり
ます。ただし、高温期に土寄せ
する場合は、軟腐病の防除を必ず
しましょう）。
- ・大雨に備えて、排水路や明渠が
詰まっていないか確認を！

② 事後対策

- ・台風一過後の高温で発生が助
長される白絹病、軟腐病等の防除
をしましょう。
- ・根が弱っているので、窒素成分
の入った液肥を葉面散布するの
もお勧めです。
- ・基本は無理に起こさず自然に
起き上がるのを待ちましょう。

※図1参照

図1 台風後ねぎを起こした方がいい場合（フローチャートをチェック！）



※葉切り処理 … 当該試験では地際部から35cmのところまで切除。

定植後の防除編

1 夏の病気に気を付けましょ
う！

気温 30℃35℃の時期は軟腐病、
気温 25℃30℃になると白絹病の
多発条件となります。

【対策】ほ場の排水対策を行い、
加湿状態を避けましょう。台風や
ゲリラ豪雨後に必ず殺菌剤を散
布しましょう。

2 シロイチモジヨトウの防除

幼虫が大きくなると薬剤がき
きにくくなるので、発生初期から
継続的な防除を！夜行性なので、
日中はねぎの中に潜ってしま
います。朝か夕方の方の農薬散布がベ
ターです。

新高に代わる品種候補について 暑さに負けない千葉の梨

約10年前まで、東葛飾管内の主要品種の一つとして栽培されていた「新高」では、昨今の夏の高温により果肉障害が多発しているため、多くの生産者が品種の更新を余儀なくされています。本記事では、代替品種の候補として「新高」と同時期に収穫できるとされ、さらに近年の高温による顕著な障害が発生していない品種の「秋満月」と「甘太」を紹介します。品種特性については、下表にまとめました。また、東葛飾管内の現地情報をもとにそれぞれの栽培管理のポイント、近年の高温条件下での収穫期についてまとめました。

秋満月（千葉K3号）

○栽培管理のポイント

意識すべき特性は、樹勢が強く、枝がとても太りやすいことです。樹体のあらゆる部分から強い新梢が出やすく、枝が込み合ってしまう。また、側枝が樹の生長を妨げるほど太くなることもあり、短果枝の着生が安定しているにもかかわらず、側枝を長期的に

品種特性		
	秋満月	甘太
品種育成	千葉県	農研機構
開花時期	新高より遅い	新高より遅い
S遺伝子	S3S9（新高と同じ）	S3S4（あきづき、秋麗と同じ）
生育特性	樹勢が強く枝がとても太りやすい えき芽の着生はやや少ない 短果枝の着生は安定している	樹勢はやや強い 頂部優勢性が弱い 花芽の着生は安定している
果実の特性	平均果重700g程度 多汁で果肉がなめらか 糖度は高く酸味はない 日持ち性が良く新高の2倍程度	平均果重570g程度 高糖度で柔らかく酸味が少しある 日持ち性は新高より劣る

使えません。

枝が込み合わないよう新梢管理を行い、側枝にはあえて着果負担をかけることで枝の肥大を防ぐことを検討してください。（成木で10aあたり5〜6t目標）。加えて、予備枝育成時に早

めの誘引を行うことも枝の太りを抑制するのに効果的です。

○収穫期について

収穫時期は満開後15日頃となり、「新高」と同程度です。東葛飾管内で収穫される「秋満月」もおおむねこの時期で収穫がされています。近年の高温条件下で既存の晩生品種の収穫時期が前進する中で、「秋満月」の高温耐性に期待がされています。

一方で、品種特性として果実に生理障害（みつ症、冷蔵保存による維管束褐変）が発生することがあります。今後、更なる導入促進のため、栽培技術の検討・確立を行う必要があります。

甘太

○栽培管理のポイント

意識すべき特性は、樹勢は比較的強いが頂部優勢性が弱いことです。主幹付近の新梢の発生が強く、主枝先端や予備枝の伸長に影響がでます。新梢の伸長を促した場合、他の品種以上に新梢発生位置を高くするか、ジベレリンペーストの使用を検討してください。

短果枝の着生が良いことを活かし、側枝を長期的に使うためにも、側枝の基付近が太くならない

よう新梢管理等を徹底してください。

○収穫期について

「甘太」の収穫期については、農研機構の技術資料では、「新高」と同程度かやや遅いとされていますが、東葛飾管内で収穫される「甘太」は、かなり前進しています。今年に限っては「あきづき」と同時期（もしくはやや早い）に収穫時期を迎えており、適期の判断が難しくなっています。また、昨今の高温により、果皮中のクロロフィルが抜けにくくなっており、従来の色回りで収穫してしまうと、かなり果実が軟化しており、取り遅れとなるケースが多いです。今後も、夏季の高温が予想されますので、収穫時期の前進化に注意し、食味を含めて収穫適期を判断する必要があります。



令和7年度千葉県指導農業士及び

農業士の新規認証者の紹介

千葉県では、地域農業をけん引し、地域の後継者の育成・指導を行う農業者を「指導農業士」として、集団活動に積極的に参加し、地域農業のリーダーとして活躍する青年農業者を「農業士」として認証しています。今年度、東葛飾地域で新たに認証された方をご紹介します。

指導農業士

佐久間 純子 氏（船橋市）



酪農を営まれており、環境対策として汚水の下水処理を行うとともに、エコフィードの利用に早くから取り組みコスト低減を実現されました。

地域での酪農に対する理解を深めるため、小学校等への食育活動や、地場産にんじんを給餌するなど取組を行っています。

また、酪農経営に係る研修の視察受入等、後進の育成にも尽力されています。

農業士

石神 光一 氏（船橋市）



露地野菜及び水稻の複合経営です。千葉県青年農業者会議の実行委員やJAいちかわ船橋地区青年部の役員を務め、集団・団体での活動にも積極的に参加されています。都市化が進む中で、自身の発展だけでは農業の継続は厳しいと考え、地域農業全体での発展に向けて、他の生産者との情報交換や後輩への指導にも積極的に取り組まれています。

令和8年度農業経営体育成

セミナー受講者を募集します！

農業事務所では、就農して間もない若手農業者を対象に、知識・技術の習得や仲間づくりを目的として農業経営体育成セミナーを開講しています。

1年目は、病害虫や土壌肥料、農薬等の基礎的な知識・技術を学びます。2年目は、より発展的な知識・技術の習得や、自身の経営の問題解決に向けた個別プロジェクト学習を進めます。3年目は、自身の経営発展に向けて経営分析を行い、営農計画を作成します。また、先進農家や農業関連施設を視察し、地域内外の農業を学ぶほか、受講者同士の情報交換や相互訪問を行い、同時期に就農した仲間との交流を図ります。

農業事務所では、開講に向けて、例年5月上旬まで新規受講者を募集しています。詳細や参加希望は、改良普及課まで問合せください。

文化の日 千葉県功労者表彰 受賞者の紹介

11月3日に、船橋市の飯島清氏が「文化の日 千葉県功労者表彰」を受賞されました。

飯島氏は、平成17年に設立したJAいちかわ船橋ベーターキャロット組合の副会長として、生産者間の結束やにんじんの有利販売に尽力され、JAいちかわ船橋人参共販委員会委員長に就任してからは、にんじんとして全国初となる地域団体商標「船橋にんじん」の登録を実現し、産地の発展に大きく貢献されました。

また、ほうれんそうにおいても出荷組織を立ち上げ、品種統一や作業改善を進め、県内有数の産地形成に大きく寄与されました。

